



ポストコロナの時代の学校教育活動

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、3年半にも及ぶ長い期間学校教育活動に大きな影響を与え続けたことで、子どもたちにも様々な影響が及びました。今年5月より5類感染症に位置づけられて以降も感染者が0になったわけではありませんが、学校では「ポストコロナの時代の学校教育活動の在り方」を模索しているところです。

《「学び方」にかかわる影響》

本校では、コロナ前から「聴くこと・伝えることを大切にした問題解決的な授業づくり」を推進し、「主体的・対話的で深い学びの実現」に努めてきました。しかし、コロナによる制限により「仲間と距離を取ること」が義務付けられ、教室内の机の配置も「一斉前向き」となり、仲間と頭を突き合わせて学ぶことができませんでした。そんな中、教員も、聴き合い話し合う活動を工夫することが難しくなり、本年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙では「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めた



り、広げたりすることができていますか」の問いに対して、肯定的な回答の割合が全国平均値より「下回っている」という結果となりました。

平成26年度以降の肯定的な回答の割合を調べてみると、「かなり下回っている」状態から徐々に全国平均値と同程度となり、令和3年度には「かなり上回っている」状態にまで上昇していたので、3年間のコロナ禍が影響したと考えます。

・ 本年度の重点 ～「考え、議論する道徳」の授業づくり～

ポストコロナの時代において「主体的・対話的で深い学びの実現」は、予測不可能な社会を生きる子どもたちにとって必要な「学び方」であることは間違いありません。また、子どもたちが他者との関わりを通して自分自身の考えを深め、他者を思いやる心・人間関係を築く力等を高め、よりよく生きようとする意欲や態度を身に付けていくことも求められています。そこで本年度は、県の研究指定を受け「考え、議論する道徳」の授業づくりに取り組むことにしました。



四日市市教育委員会の指導主事の先生や岐阜聖徳学園大学の山田貞二先生に学びながら、その経過を11月29日(水)に市内の教員を対象に授業を公開します。日々の授業改善に努め、子どもたちに深い学びを提供できるよう取り組みます。

「体力」にかかわる影響

毎年5年生が実施している全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を受けて、課題となる体力・運動能力の改善を図るため、体育の授業の充実・改善はもちろん、体育的行事の取組時期や内容の再検討が求められています。調査結果によると、四日市市全体で「走の運動」に課題があることが明らかになり、本校においても「50m走の記録」において県や国の平均値を「下回っている」ことがわかってきました。

・ 本年度の重点 ～「走の運動遊び」「短距離走・リレー」「運動会」～

そこで1学期は体育の授業において「走の運動遊び」「短距離走・リレー」に重点を置いて指導してきました。そして運動会では、6年生の「全員リレー」を実施することにしました。運動会において、6年生の「全員リレー」を実施することにした主な目的は次の通りです。

- ◇ 最高学年である6年生による「全員リレー」を参観することにより、下級生の「走の運動」に対する運動意欲の向上を期待する。
- ◇ 「全員リレー」の実施に至るまでの取組において、個性を認め合うこと・仲間と助け合うこと・勝敗を受け入れること等を体験的に学び、仲間との連帯感を涵養する。
- ◇ 個に応じた目標をもって「短距離走・リレー」(1学期)に取り組むことで、体力・運動能力の向上を図るとともに、小学校生活最後の運動会(2学期)において「走の運動」に関して学んだことを発表する機会とする。

・ 運動会:児童会のスローガン「新しい時代へ ～ 心をひとつに ときわっ子～」

来週19日より、本格的な運動会の練習が始まります。まだまだ暑さは厳しいので、熱中症対策に留意しながら、慎重に進めてまいります。

児童会が決めた本年度の運動会スローガンの通り、練習の過程においても、より充実した運動会になるよう皆で話し合い、皆で協力し合って取り組むことで連帯感や達成感を味わい、豊かな人間関係を築いてほしいと期待します。



第3回コミュニティスクール運営協議会

子どもたちの様子を観察していただくとともに、今後の学校教育活動へのご意見等を伺いました。特に確認された主な重点項目は以下の通りです。

- ・ 今後も読書活動推進に努めてほしい。
- ・ 児童アンケートの結果にとらわれるのではなく、今後も、一人ひとりの見守りを丁寧に続けてほしい。
- ・ あいさつについては、地域・学校・保護者がそれぞれの立場で取り組みたい。

これらのご意見等もふまえて、教育活動の改善を図ってまいります。

